

令和5年2学期終業式 式辞

校長 黒岩 寛

今、校舎を足場で囲っているのは、北館トイレの改修工事と校舎外壁の塗装を行うためです。先日、足場作業の先輩と後輩が楽しく笑いながら来て、後輩が足場を登り始めた時、下から先輩が「それ汚い、アカンやり直せ」ととても厳しく指示している声が校長室に聞こえました。校長室からは見えませんでした。仕事に入るとシビアに職務に取り組む姿勢からは、実社会の厳しさが伝わって来ました。3年生も数ヶ月後にはその実社会に出ていくことになります。

さて、2学期は多くの行事があり、その中で君たちの元気で笑顔の姿を多く見ました。行事でボランティアスタッフを勤めてくれた人も多数いました。ありがとう。先日の球技大会では、ミスした仲間を励まし、仲間を応援する優しさが見られました。ドッジボール決勝で、進んでボール拾いをする人や、通学中に目の前でスマホを落とした人にスマホを渡すために家まで追いかけた人がおり、人に対してさりげない優しさを持っているところは君たちのとても良いところであり、君たちを誇りに思えるところです。この君たちの良さを大事に、自分たちの良いところを伸ばしていきましょう。

行事で保護者や卒業生から「もったいない」という言葉を良く聞きました。体育祭では「あんな頭（髪型）せんでも、こんなに楽しそうやのにもったいないわ。」と保護者の方が言ったり、創立40周年記念式典では「朝、見かける播磨南の生徒は、スカートが短く茶髪で、今の播磨南は大丈夫かと心配していたが、すごく良い生徒ばかりで安心しました。こんな生徒の良さが外部に伝わっていないのはもったいないですよ。」と卒業生の方から話があり、球技大会では先生が「これだけ運動ができる生徒がいるのに、部活動に入っていないのはもったいないなあ。」と言っていました。「もったいない」と言われることは、あと少し何かが足りないからで、君たちがあと少し変化すればもっと良くなるということです。では、あと少し何をどう変えればいいのでしょうか。その答えは、昨日の学年集会で先生方が大切なことを言ってくれています。先生方からの話を思い出して、あと少し自分を変化させて、自分自身を伸ばしてください。

始業式に少し変化した皆さんに会えること楽しみにしています。

良いお年を。